

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000413		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ江別東光館		
所在地	北海道江別市東光町33番地6		
自己評価作成日	令和2年10月14日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000413-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和2年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設内にひきこもらないように、季節を感じられるよう外出を多く取り入れています。 ・出来る事は利用者と一緒にいき、食事の下ごしらえや後片付け等利用者中心に一緒にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたんぼぼ江別東光館は、JR江別駅から徒歩圏内の閑静な住宅街にある開設3年目の事業所です。玄関ホールを中心に2つのユニットがあり、事業所内を利用者が自由に行き来できる構造です。利用者が地域に親しんだ生活ができるよう、利用者に関わる人達との良好な関係作りを行っています。運営推進会議には行政や地域代表等の出席があり、事業所の現状の報告に対し、災害対策などの意見を運営に活かしています。また、例年は交流の場として地域住民や家族を招いて焼肉会を開いています。事業所に隣接する公園は、市民の憩いの場であり、利用者の散策コースとして子供達と交流の機会があります。家族には毎月の通信、個別の生活報告で詳しく様子を伝え、コロナ禍に在っては不安感に配慮し、面会や電話の際に対話を心掛けています。ドライブや外食など戸外活動は日常的に行い、利用者が楽しみにしている毎日の食事は、嗜好の把握と変化を工夫し、なごやかに食卓を囲んでいます。健康支援では職員の受診同行のほか往診体制を整え、先を見据えて詳細な看取りケアの指針を作成し、職員研修を進めています。現在、行事や外出だけでなく様々な交流場面に制限はありませんが、職員は、利用者に日々笑顔で過ごし、心身の機能維持を保って欲しいと願い、感染症対策の徹底を図りながら、レクリエーションや楽しみ事など活動面の充実に取り組んでいます。

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	リビング等に掲示しそれを踏まえたケアを行っている。	法人理念を事業所理念として、事業所内の目に付きやすい場所に掲示し、日常的に確認しています。職員は年度初めの研修時に理念の共有を行っています。更に理解を深める取り組みとして掲げている3項目全ての内容を、職員自己点検シートで定期的に確認する予定です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではありませんが、公園等に散歩に行った際には挨拶を心掛けています。施設の行事に地域の方々来て下さる等交流する機会がふえつつあります。今年度はコロナウイルス感染予防の為機会がありませんでした。	町内会に加入し、清掃活動等に参加しています。事業所の行事には演芸など各種ボランティアを依頼し、焼肉会の際は近隣住民にチラシを配布して交流の機会を作っています。コロナ禍により自粛していますが、散歩時には挨拶を欠かさず、交流の継続に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やご家族、相談に来られた方々を通じ認知症の事を知ってもらえるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の方、ご家族、行政の方に参加していただき意見交換、ご指導を頂きサービスの向上に活かしたいと思っています。今年度はコロナウイルス感染予防の為書面に於いての報告となっています。	運営推進会議は、町内会長などの地域代表や地域包括支援センター、事業所職員も参加し、2カ月毎に開催しています。報告事項に対する意見や助言、地域情報を得て、防災面など運営に活かしています。今年度はメンバーに書面で報告しています。	感染症予防のため、会議を開催できない状況ですが、書面報告に対して、意見や助言等の聞き取りを工夫し、運営やサービスに活かす取り組みを期待します。併せて会議が再開となった場合に家族の参加要請を継続していくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは日頃からご指導頂いています。感染予防や災害時の対応について等随時連絡をもらっています。	今年度は、感染症の予防等について、介護保険課等とメールやファックスなどで情報交換を活発に行っています。利用者の生活面等でも関わりは幅広く、江別市社協のボランティアの紹介も活用しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員を設け年2回の研修、外部の研修へ参加し理解し防止に努めています。	指針を基に、今年度から法人内に適正化委員会を設置し、事業所内では資料回覧を行っています。職員は不適切なケアも含め拘束に当たる具体的内容を理解し、拘束のないケアに取り組んでいます。センサー等の使用時は、目的を明らかにして家族に説明し、同意を得ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自施設の研修、外部の研修への参加等学ぶ機会を持ち防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設の研修では取り上げられる事が少なく、理解できていない事が多くあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申し込みや契約時に家族への意見・要望等を聞き説明・納得していただくようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に利用者様の状態をお伝えし、月1回、生活報告書にて状況報告しています。	職員はユニット別の配属ではなく全利用者への介護を行っています。利用者の生活状況は全職員が理解し、家族の来訪時に伝えています。家族からの意見は話し合い、方向性を共有しています。毎月通信と個別の生活報告書、隔月で運営推進会議議事録を送付し、意見等を言いやすい環境を作っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常時、会議中に話しをする機会を設けています。	職員は毎月の会議の中で意見交換し、運営に関する意見や提案をしています。全員が研修や行事などの各委員会に属し、委員会活動の中でも意見を反映できるようにしています。管理者は日常的に業務の中で個別に意見を聞き取り、自己評価をもとにした個人面談も予定しており、向上心や意欲を保てるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の中での楽しみや向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修に参加出来る機会を設け、又資格助成制度を活用し職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	北海道GH協会や江別GHあおいの会との連絡を取りネットワークづくりをしています。今年はコロナウイルス感染予防の為活動が出来ていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者との面談を行い、本人の状態や話しを聞いています。また入居時に不安のないように、職員は本人の過ごし方を観察し何に戸惑っているのかを見極め話しやすい環境を作れるように関わりを持っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者、職員が家族がどのような生活を希望しているのか、安心してサービスを利用できるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時本人と家族の要望や困っている事を聞き、暫定プランに反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として教えていただく事もあり、一歩的な介護にならないよう関係を築いていきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に職員、家族が協力し本人を支えていける関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が通っていた美容院等、馴染みの人々の来訪時の時間を大切にしています。今年はコロナウイルス感染予防の為時間を提供する事が出来なっています。	家族の他、親戚や友人等の面会は、アクリル板や面会室の設置、ZOOMなどのネットの活用も検討し、感染予防を行いながら継続できるようにしています。買い物や馴染みの美容室の利用、近くの神社への初詣など、親しい人たちとの関わりや生活習慣を大切にしています。最近、故郷の話などを話題にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人同士が同じテーブルで食事をしたり、体操やレクレーション等で利用者様同士が関わりを持てるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様ご家族様と会う機会がなく、そのような機会がありませんでした。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、その人らしさやこだわりを尊重しています。	直接的な言葉での意向の聞き取りのほか、表情や行動などで感じ察した本人の思いを大切に、申し送りや支援経過表で共有し、その実現に向け検討しています。得意な家事や健康法など、習慣の継続やその人の望んでいることができるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴や習慣等を聞き、出来る限り維持した生活が送れるよう、ケアプランに活かし支援して行きます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活状態は介護支援記録に記録し、毎日の引継ぎや職員会議、ケアプランに反映させています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各担当者がモニタリングをし、計画作成担当者、管理者がチェックし3ヶ月に1度見直し、ご家族・職員から意見を聞きケアプランを作成しています。	介護計画は、毎月担当職員がモニタリング、アセスメントを行っています。3ヵ月毎に本人、家族の意向をもとに、計画作成担当者を中心に現状のニーズを踏まえ、本人本位の計画を作成しています。身体状況の変化時は主治医からも意見を聞き、随時計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録やアセスメント等を利用し、共有しながら見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに対応できるよう努力したいと思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお店や地元のスーパーを利用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に継続してかかっています。利用者の状況や家族の希望などで、往診医に変更もあります。	希望のかかりつけ医の受診を継続できるよう、家族と協力し支援しています。状況により訪問診療に変更も可能で、安心して医療を受けられるようにしています。週2回看護師の健康チェックを行い、職員と本人の状態の共有を図っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間での情報共有を看護師へ申し送り、利用者が適切な看護を受けられるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況やADL等の情報を病院に提供しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望と本人の意思を確認し、事業所のできる事を行っていきたいと思います。	重度化・看取り介護の指針があり、同意を得ています。指針は詳細に作成し、利用者、家族、関係者の理解と安心につなげています。重度化した場合は医師の判断のもと、家族や関係職種との話し合いを行い、方針を共有しています。事業所での看取りはまだなく、昨年度より職員研修を実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員は参加できませんが、市消防所の普通救命講習会に参加予定です。今年は実施出来ていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災時避難訓練、地震想定シェイクアウト訓練を行っています。	年2回夜間、火災を想定した避難訓練の実施と、江別市の地震想定シェイクアウト訓練に参加しています。消防署の指導のもと、担当職員を毎回替え、利用者参加の誘導訓練を行い、非常時に適切に対応できるよう取り組んでいます。	事業所は、新たに系列施設を緊急時避難場所として設定し、水害等対策を進めています。運営推進会議で意見を得ながら地域との協力関係作りにつなげる取り組みや、水害時の避難誘導など地域との連携を視野に入れた訓練の実践を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の「先輩として接し、言葉使いに配慮している。その場の雰囲気に合わせて対応をしています。	事業所全体が温かな雰囲気になるよう、利用者の人格尊重の基本姿勢を学んでいます。職員は明るく親しみを持って対応しており、気になる言葉使いなどは、状況を聞きながら管理者やリーダーが注意し、尊厳を傷つけないようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、思いや希望を聞けるよう関わるようにしています。簡単な自己決定が出来る様日々働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	おおよその日程は決まっているが、その人らしい時間を過ごせるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の日課として毎朝身だしなみを整えて頂いています。外出時にはおしゃれをして頂けるように声掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日は難しいですが、調理や下ごしらえ等出来る範囲で一緒に準備や食事、片付けを行っています。	利用者の好みを反映した家庭料理で、利用者のできることや、意欲に応じて手伝ってもらい、楽しい食事になるようにしています。感染予防のため現在は中断していますが、通常時は職員も食卓を共にしています。行事食や戸外でのランチ、ラーメン店が出張して目の前で作ってくれるなど、メニューの変化や場所、雰囲気も工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量、食べられる量を把握しバランス浴提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けをしています。手伝いが必要なかたにはスタッフが介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心掛け、排泄パターンや習慣を大事にした支援を心掛けています。	トイレ排泄ができるように、個別に必要な支援と羞恥心等への配慮をしています。紙パンツから布下着に変更した人もおり、その時々適切なケアを検討しています。できる限り自然な排泄ができるようにし、排便コントロールが難しい場合は主治医にも相談しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、緩下剤の調整、適度な運動を行い、個々に応じた予防対策を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	出来る限り希望に添い、個々のタイミングで入浴が行えるよう支援しています。	毎日入浴できるよう準備し、気分や希望に柔軟な対応を心掛け、同性介助にも対応しています。シャワー浴の場合でも、室温にも配慮し、足浴を組み合わせるなど心地よく温まることができるように工夫しています。入浴時は利用者と職員の1対1の会話が弾んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に自室で休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員はいつでも観覧する事が出来ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の希望を出来る限り行えるよう、日々支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも出かけられるようにし、見守りをしています。コロナ終息後はドライブや外食等出掛けたいと思っています。	外食やドライブ、果物狩りなど、日々柔軟に外出できる環境を作っていますが、外出自粛のため現在は機会が少ない状況です。感染症対策を取りながら、公園散歩や畑、プランターの水遣りなどで、日常でできる気分転換や外気に触れる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと一緒に買い物に行った際、きぼうに応じて使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望はありませんが、先方からかかってきた時には取り継ぎお話ししてもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて利用者様と一緒に作成した貼り絵や花を飾っています。	共用空間はゆったりとした広さがあり、季節ごとに装飾を取替え、行事の写真等を掲示し、和やかな雰囲気になっています。居間の他、玄関ホールにもソファを置き、利用者が自由に過ごすことのできる空間作りをしています。居心地よい環境を整え、清掃面、温・湿度管理、換気に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで思い思いに過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に家族と相談しながら、使い慣れた物や好みものを置くようお願いしています。	居室には、使い慣れた筆筒や一人掛けソファなどを持ち込んでいます。仏壇に毎日お供えをしたり、編み物道具を手元に置いている利用者もあり、今までの生活習慣が継続できるよう、個別の居室作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがついていて、安全に歩けるよう配慮しています。トイレ、自室にネームプレートがかかっており迷わないよう配慮しています。		